

2018年度英語教育教材FDプロジェクト報告書

プロジェクト名：特定学科における英語B用映像教材の改善

関係教員： ヒンクルマン・D.W.

目的：英語B・Oral Communicationにおけるオンライン映像教材並びに紙媒体の教材を準備することが目的である。このプロジェクトでは教材を拡張するために以下のようなものを考えている。

- オンラインの教材の製作：会話形式の映像教材、オンライン小テスト、Kahootのための映像教材（点数制のオンラインクイズゲーム）
- オンライン教材の改善：オンラインクイズをするにあたり、学生が正誤の理由を理解できるように、それぞれのクイズに日本語のフィードバックを付ける。
- 過去の紙媒体の教材を集め、教員・学生用のファイルブックの作成
- レポートの翻訳（英語から日本語、日本語から英語）

方法：2018年度を通し、英語B・Oral Communicationを担当する教員から教材を集め、教科書の改訂版を作成。2019年度に使用する教員・学生用の教材としてクリアファイルにまとめる。1・2年生の一般英語科目を対象としたオンライン並びに紙媒体の教材の開発を継続。学生のための教材、及びそれを作成するための教員用機器に助成金を利用。

教材や授業内容は以下のようなものを考えている。

- 紙媒体の教材（例：ファイルブック）
- 授業外学習のための教材（例：ビデオやオンラインの小テスト等）
- 表彰並びにデジタル・アチーブメント・バッジ
- アクティビティ（ペアワーク、グループワークなど）で使用する専門分野に合わせた教材
教員には、教員・学生用マニュアルなどを提供する。

成果：

1. 英語コミュニケーションの担当教員がオリジナル教材を作成（例：70冊の教員・学生用ファイルブックを作成、映像教材を作成）
2. 翻訳業務及び反転授業用オンライン教材の構築のために学生2人を雇用（より魅力的で読みやすい教材の作成）（例：オンラインクイズ24問に含まれている240問のクイズ全てに対する日本語のフィードバックを追加）
3. 教員用マニュアルを作成

課題：将来的にマルチメディアの教育教材は、作成と維持の両方を行う上で労働集約的な問題があります。しかし、この教材には利点もあります。それは教師陣として作業する時間を短縮できることです。ほとんどの教師は質の高い映像資料、及び紙媒体の資料を作成する時間がないため、時間の節約ができることは教員にとって利点となります。また、ほとんどの市販の教材は1冊あたり平均3000円であるため、学生にも金銭面で利点があります。この場合はカラー印刷費用のみの負担となるため、これらの教材は無料または低価格での提供が可能です。一方で、プロジェクトの課題は学習の目的、基準、及び目標について教員の同意を得ることが難しいことです。これもまた継続的な問題ではありますが、オープンLMSで入手可能な柔軟な資料があれば、教員が自らの観点にあった教材を選び、それらを自由に使用することが可能となります。

2019年2月20日 D. W. ヒンクルマン